

柔道整復学総論Ⅱ		講義	教授 川崎 一郎
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12351102

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師は、「骨折、脱臼、打撲、捻挫等」といった運動器に対する急性の外傷性疾患に対して保存的治療を行うことを業務としている。この授業では、関節の損傷（捻挫・脱臼）や筋・腱の損傷などにおける基礎的知識（様々な分類法、局所の症状、合併症、治癒機序と予後など）とその治療法（一般的な整復法並びに初期処置法、後療法など）について理解する。また、インフォームド・コンセント（説明と同意）の基礎となる指導管理についても学習する。

2. 授業の進め方

主に Power Point を用いたスライドおよび板書による講義形式で授業を行う。必要に応じて DVD などのメディアを教材として利用し、イラストを中心にわかりやすく編集された教科書を補足的に用いる。

3. 授業計画

1. ガイダンス 関節の損傷①（概説、分類）	9. 血管系、リンパ系の損傷（分類、症状）
2. 関節の損傷②（靱帯および関節包の損傷）	10. 皮膚の損傷（受傷原因、治癒機序）
3. 関節の損傷③（関節軟骨およびその他の損傷）	11. 治療法①（脱臼の整復法、軟部組織損傷の初期処置）
4. 関節の損傷④（脱臼の分類）	12. 治療法②（後療法）
5. 関節の損傷⑤（脱臼の症状と合併症）	13. 指導管理①（環境、整復）
6. 筋の損傷（分類、合併症、治癒機序）	14. 指導管理②（固定、後療法）
7. 腱の損傷（分類、治癒機序）	15. まとめ
8. 末梢神経の損傷（分類、症状、治癒機序）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業を受講するまでに前回の授業内容を、配布プリントやノートを使って復習しておくこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では、運動器に対する急性の外傷性疾患を評価し治療する上で必要な専門的知識や技術の基礎となる総論的事項を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への取り組み姿勢（15%）小テスト（15%）定期試験の結果（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①柔道整復学・理論編改訂 7 版 社団法人全国柔道整復学校協会南江堂
- ②毎授業で資料を配布する。

9. 受講上の留意事項

携帯電話の使用、飲食、帽子の着用は認めない。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は接骨院における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。